

ご町内のみなさん、日本共産党です。この場をお借りして、いま国会で大問題になっている「戦争法案」について日本共産党の考えを訴えさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

安倍首相は「戦争法案ではない。国民の命と暮らしを守る法案だ」といいます。しかし、この法案が成立すれば、自衛隊はこれまでは行けなかった「戦闘地域」にまで行って、米軍の「後方支援」をおこえるようになります。

さらに、日本が攻撃もされていないのに、集団的自衛権を発動し、海外で米軍と肩を並べて武力行使することができるようになります。安倍政権は「専守防衛」というたてまえもかなぐり捨てて、自衛隊を「殺し殺される軍隊」へと変えてしまおうとしています。これが「戦争法案」でなくて何なのでしょう。

いま全国で若い人たちが「戦争へ行きたくない」と声をあげはじめています。ある高校生は「戦場に行き、命をかけてたたかうのは僕たち自身です。憲法違反を犯した政治家たちではない」といいました。ある大学生は「政権をまかせるなら自民党と思っていた。でも今は、立憲主義も無視し、太平洋戦争と同じ道を歩んでいるようで、裏切られた気分です」といいました。

若い人たちのこの声に国民全体がこたえようではありませんか。憲法9条をふみにじる安倍政権の暴走をストップするために、党派をこえてご一緒に反対の声をあげましょう。ただいま、戦争法案に反対する署名を集めて毎週国会に届けています。ぜひともご協力をお願いいたします。8月30日午後4時から、扇町公園におきまして戦争法案反対の大規模な集会がおこなわれます。ぜひご参加下さい。

ご町内のみなさん、日本共産党です。ただいま、戦争法案に反対する宣伝をおこなっています。「戦争法案は反対だが、中国、北朝鮮の動きが不安」「共産党はどうやって平和と安全を守るのか」という声がよく寄せられます。

たしかに私たちが住む日本の周辺では、さまざまな緊張や紛争があり、不安を感じておられる方が多くいらっしゃいます。それは私たちも同じです。しかし、軍事的な動きに対して、こちらも軍事的にかまえば、相手はさらなる軍事で対抗し、軍事対軍事の悪循環におちいってしまいます。

結局、国と国との紛争を軍事的な手段で解決することはできず、対話や外交の努力を重ねていくしか道はありません。これは理想論ではありません。実際、東南アジアの国々は、南シナ海の領土紛争をかかえています。紛争を平和的な話し合いで解決するという国際条約をつくり、この条約の締約国をどんどん広げています。

日本共産党は、東南アジアの努力に学び、日本、韓国、北朝鮮、中国、台湾、ロシアがある北東アジアの地域でも平和的に協力しあう国際条約をつくるべきだ、日本政府がそのための真剣な外交努力をせよと強く主張しています。そのためにも、日本が憲法9条をしっかりと守りぬく決意を表明すること、日本による過去の侵略戦争と植民地支配の反省をおこなうことは、平和を築く土台となると考えています。

また、日本にとって中国は、いまやアメリカをしのぐ貿易相手国です。もし紛争が軍事衝突に発展すれば、日本と中国の経済にはかりしれないダメージがもたらされ、両国は共倒れしてしまうでしょう。経済的にも、対話・外交による紛争の解決こそが、唯一の道ではないでしょうか。

ご町内のみなさん、「戦争法案」は自衛隊の若者の命を危険にさらすだけでなく、日本の平和と安全をおびやかすものであり、絶対に通してはなりません。党派をこえて「きっぱりと廃案に」の声を上げていこうではありませんか。ただいま、戦争法案に反対する署名を集めて毎週国会に届けています。ぜひともご協力をお願いいたします。8月30日午後4時から、扇町公園におきまして戦争法案反対の大規模な集会がおこなわれます。ぜひご参加下さい。（約6分）